

最近の物価高で節約志向が高まった人は49.4%

外食での節約方法TOP3は、「クーポン」「スマホやカード支払いでポイント取得」「インターネット予約でポイント取得」

物価高で高まる節約志向の実態と外食での節約行動を調査

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘、以下リクルート）の外食市場に関する調査・研究機関『ホットペッパーグルメ外食総研』（<https://www.hotpepper.jp/ggs/>）は、物価高で高まる節約志向の実態と外食での節約行動について消費者アンケートを実施しましたので、その結果を発表します。

<要約>

POINT1 最近の物価高で節約志向が高まった人は49.4%。40代以上の女性で顕著・・・P3-4

▶「物価高の前から意識し、今はもっと意識している」「物価高の前は意識していないが、今は意識している」のいずれかを回答した節約志向が高まった人は計49.4%。

▶節約志向が高まった人は40代以上の女性で半数を超え、割合が最も高かったのは50代女性（計52.9%）。

▶特に節約を意識している出費は、1位「光熱・水道費」48.9%、2位「外食の費用」40.4%、3位「内食の費用（自炊の食材等の費用）」39.0%。50・60代男女は「光熱・水道費」での節約志向が高い。「内食の費用」は30～50代女性は高い一方、40代以上の男性は低い。

POINT2 外食の節約対象は、「夕食」が最多、節約方法は「回数」を減らす・・・P5-6

▶外食で節約を意識している食事の種別は、「夕食」79.3%、「昼食」56.9%、「喫茶」36.5%、「飲酒」36.3%。20・30代、50代女性は「昼食」「喫茶」の割合が高く、50・60代男性は「飲酒」の割合が高い。

▶外食の「回数」を減らすとした人が83.2%で、「単価」や「（注文の）数量」を減らすとした人よりも割合が高い。20代男女は「単価」で節約をしている人の割合が高い。

POINT3 外食での節約方法TOP3は「クーポン」「スマホやカード支払いでポイント取得」「インターネット予約でポイント取得」・・・P7-9

▶実施したことがある外食時の節約方法は、1位「インターネットやアプリ、フリーペーパーでクーポンを入手し利用」57.2%、2位「スマホやカードで支払ってポイントをためる、使う」54.9%、3位「インターネット予約でポイントをためる、使う」41.0%。

▶今後も実施したい外食時の節約方法は、1位「スマホやカードで支払ってポイントをためる、使う」50.4%、2位「インターネットやアプリ、フリーペーパーでクーポンを入手し利用」50.0%、3位「インターネット予約でポイントをためる、使う」35.5%。女性の若年層で多様な節約方法の利用意向あり。

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

調査概要と回答者プロフィール

- ◎調査名 外食市場調査（2022年12月度）
 ◎調査方法 インターネットによる調査

首都圏、関西圏、東海圏における、夕方以降の外食および中食のマーケット規模を把握することを目的に実施した調査（外食マーケット基礎調査）の中で、最近の物価高による節約意識や、節約を意識している出費の種類、外食時に実行している節約方法、これまでに実行したことがある／今後実行したい外食時の節約方法等を聴取。

- ◎調査対象 首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県）、関西圏（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県）、東海圏（愛知県、岐阜県、三重県）に住む20～69歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）

■事前調査

- ①調査目的 本調査の協力者を募集するために実施
 ②調査時期 2022年11月18日（金）～2022年11月30日（水）
 ③調査対象 首都圏、関西圏、東海圏に住む20～69歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）
 ④調査内容 本調査への協力意向、普段の外食頻度、普段の中食頻度
 ⑤配信数 500,533 件
 ⑥回収数 36,689 件
 ⑦本調査対象者数 15,080 件

- ◆本調査対象者の割付について
- ・本調査では、回答者の偏りをできるだけなくすために、割付を行って回収した。
 - ・年代別10区分×地域別25区分（首都圏地域13区分、関西圏地域8区分、東海圏地域4区分）＝250セルについて、令和2年国勢調査人口（総務省）に基づき割付を行った。
 - ・本調査の目標回収数は、首都圏4,000s、関西圏2,000s、東海圏2,000s、合計8,000sとした。

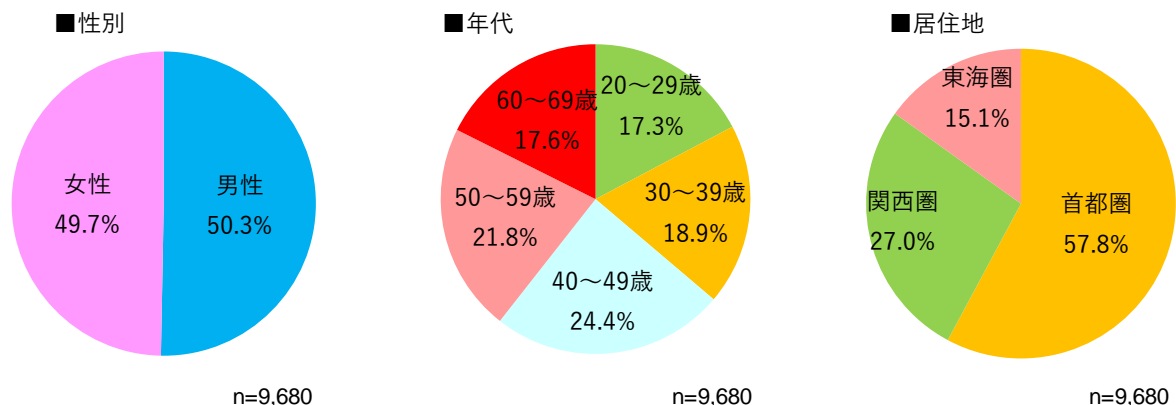
■本調査

- ①調査方法 ・事前調査で本調査への協力意向が得られたモニターの中から、脱落率を加味して設定した必要数をランダムに抽出し、本調査の案内メールを通知。
 ②調査期間 2023年1月4日（水）～2023年1月12日（木）
 ③配信数 12,596 件
 ④回収数 9,767 件 （回収率 77.5 %）
 ⑤有効回答数 9,680 件 （首都圏 4,890 件、関西圏 2,557 件、東海圏 2,233 件）

※回収された票のうち、自由回答コメントから、趣旨に合わない判断された票を無効としたほか、事前調査時の普段の外食・中食頻度の回答と、本調査時の1か月間の外食・中食回数が著しく乖離している場合、事前調査時の住所と、本調査時の住所が、圏域を越えて変わっている場合を無効とした。

- ◆集計方法について
- ・本調査結果は、令和2年国勢調査人口（総務省）における割付（性年代別10区分×地域別25区分＝250セル）別の構成比に合わせてサンプル数を補正したウェイトバック集計を行っている。
 - ・補正後のサンプル数は次の通り。
 3圏域・計 9,680 件（首都圏 5,598 件、関西圏 2,618 件、東海圏 1,464 件）

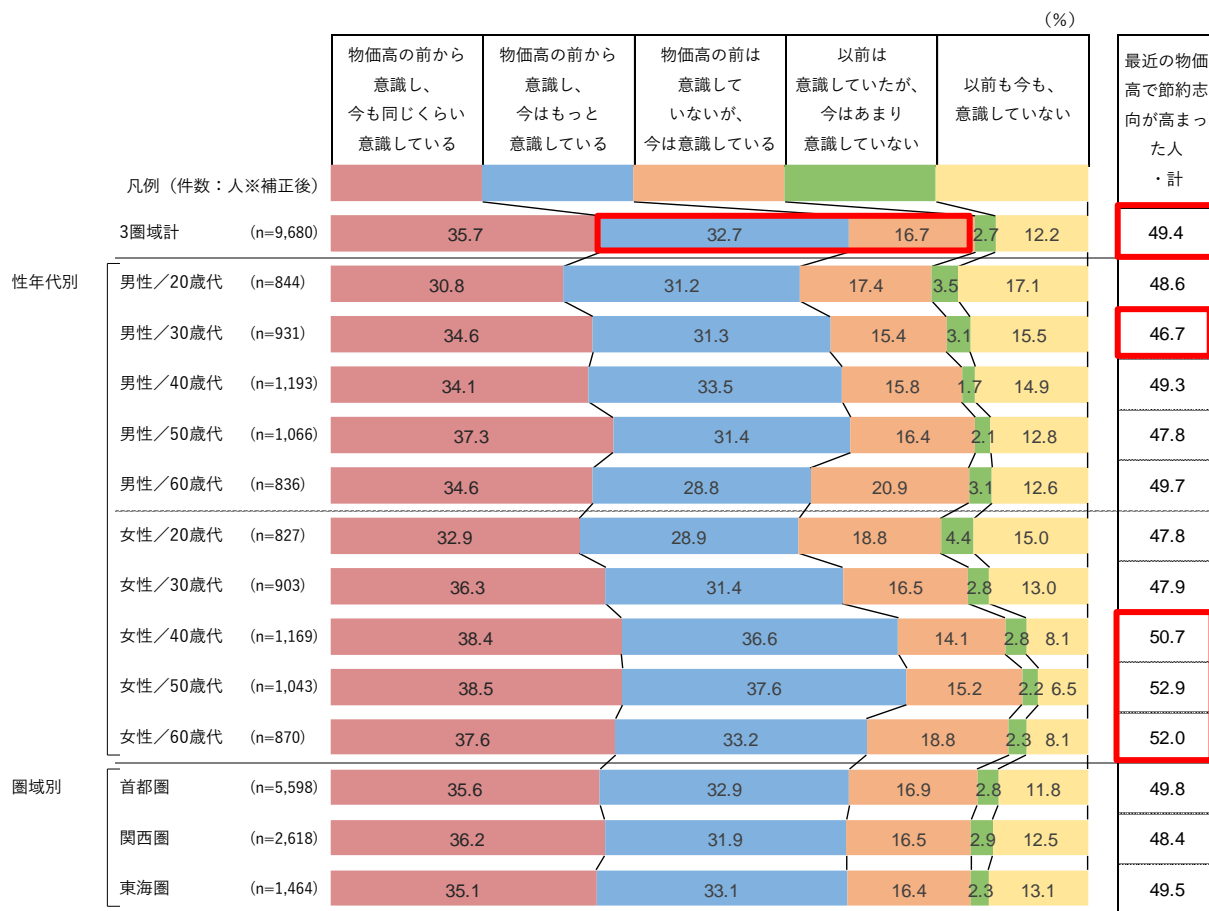
◆回答者プロフィール（ウェイトバック後）



1.最近の物価高で節約志向が高まった人は49.4%。40代以上の女性で顕著

最近の物価高での節約意識を尋ねたところ、「物価高の前から意識し、今はもっと意識している」「物価高の前は意識していないが、今は意識している」のいずれかを選択した「最近の物価高で節約志向が高まった人」は、計49.4%であった。都市圏生活者の半数近くで節約志向が高まっていることがわかった。性年代別では、「最近の物価高で節約志向が高まった人」は40代以上の女性では半数を超え、その割合が最も高いのは50代女性（計52.9%）であった。逆に、30代男性では割合が最も低かった（計46.7%）。

最近の物価高で節約を意識しているか（全体／単一回答）

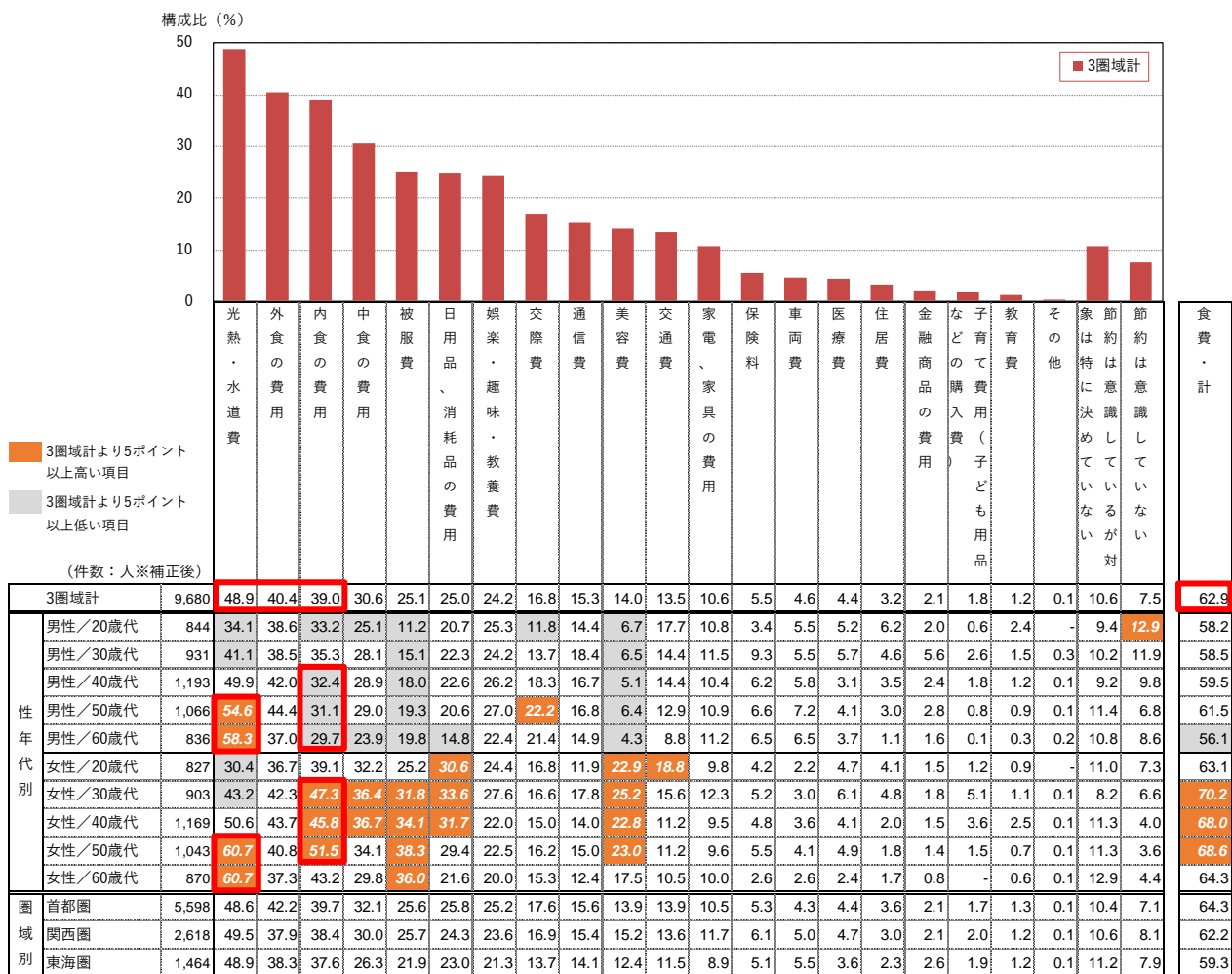


※「最近の物価高で節約志向が高まった人・計」：「物価高の前から意識し、今はもっと意識している」「物価高の前は意識していないが、今は意識している」のいずれかを回答した人を集計

2. 節約を意識している出費は、「光熱・水道費」「外食の費用」「内食の費用」等

現在、特に節約を意識している出費を尋ねた結果、1位は「光熱・水道費」で48.9%、2位は「外食の費用」で40.4%、3位は「内食の費用」（自炊の食材等の費用）で39.0%だった。ただし、「外食」「中食」「内食」のいずれかの費用を挙げた「食費・計」は62.9%で、物価高が食産業に大きな影響を与えていることがわかる。性年代別では、50・60代男女は「光熱・水道費」での節約志向が高い。「内食の費用」の節約志向は、30～50代女性で高い一方、40代以上の男性は低い。日常的に料理をするかどうかによる差が大きいとも考えられる。

現在、特に節約を意識している出費（全体／複数回答）



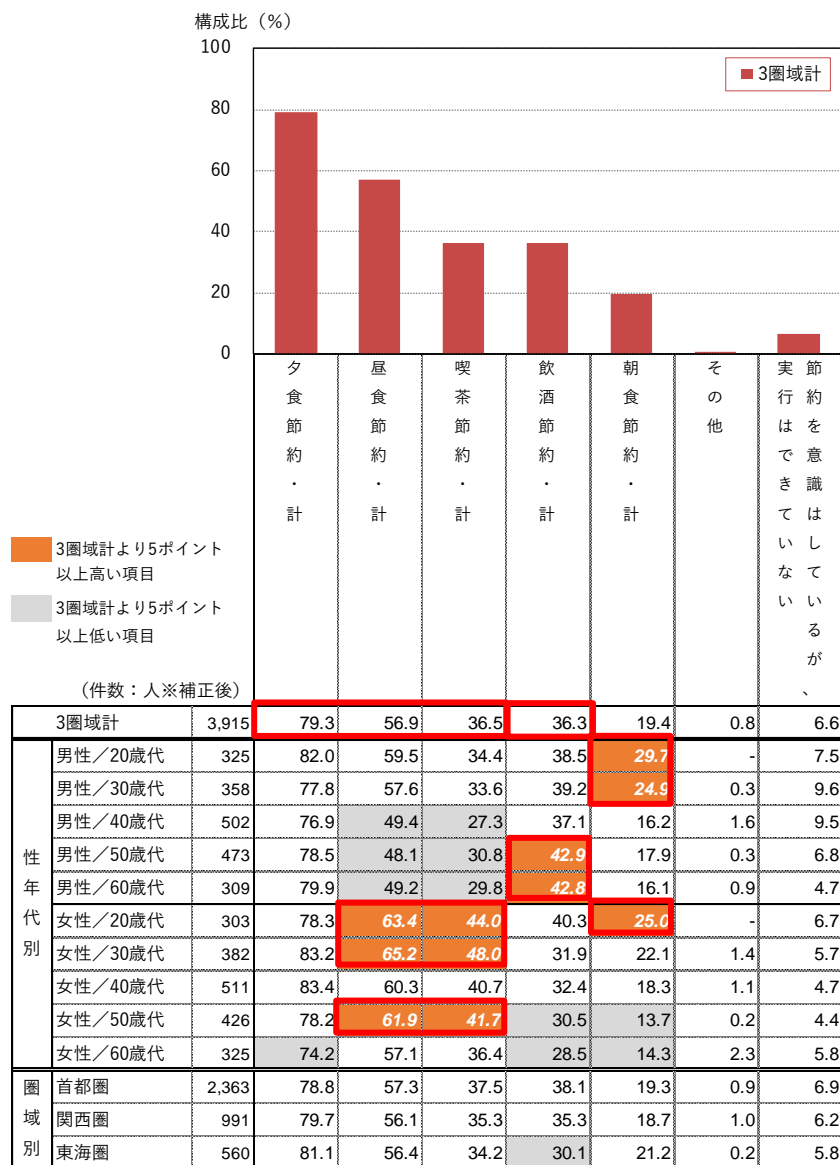
※「3圏域計」の多い順にソート

※「食費・計」：「内食の費用」「中食の費用」「外食の費用」のいずれかを回答した人を集計

3. 外食での節約対象は、「夕食」が最多、20・30代と50代女性では「昼食」「喫茶」も対象

現在特に節約を意識している出費で「外食」と回答した人に、具体的な節約対象を尋ねた。節約を実行している食事の種別では「夕食」が最も割合が高く79.3%、次いで「昼食」が56.9%、3番目に「喫茶」が36.5%、「飲酒」は僅差の4番目で36.3%であった。性年代別では、女性は同年代の男性に比べ「昼食」「喫茶」で節約する人の割合が高いが、特に女性の20・30代と50代の割合が高い。一方、「飲酒」で節約する人の割合は、50・60代の男性が高い。また、20・30代男性と20代女性では「朝食」で節約する割合が他の性年代より高かった。

【食事別】現在、外食時に実行している節約方法（「特に節約を意識している出費」で「外食の費用」と回答した方／複数回答）



※「3圏域計」の多い順にソート

※「夕食節約・計」：「現在、外食時に実行している節約方法」で「外食の回数を減らす（夕食）」「外食で飲食する量を減らす（夕食）」「外食で注文するものの単価を抑える（夕食）」のいずれかを回答した人を集計

※「昼食節約・計」：「現在、外食時に実行している節約方法」で「外食の回数を減らす（昼食）」「外食で飲食する量を減らす（昼食）」「外食で注文するものの単価を抑える（昼食）」のいずれかを回答した人を集計

※「喫茶節約・計」：「現在、外食時に実行している節約方法」で「外食の回数を減らす（喫茶）」「外食で飲食する量を減らす（喫茶）」「外食で注文するものの単価を抑える（喫茶）」のいずれかを回答した人を集計

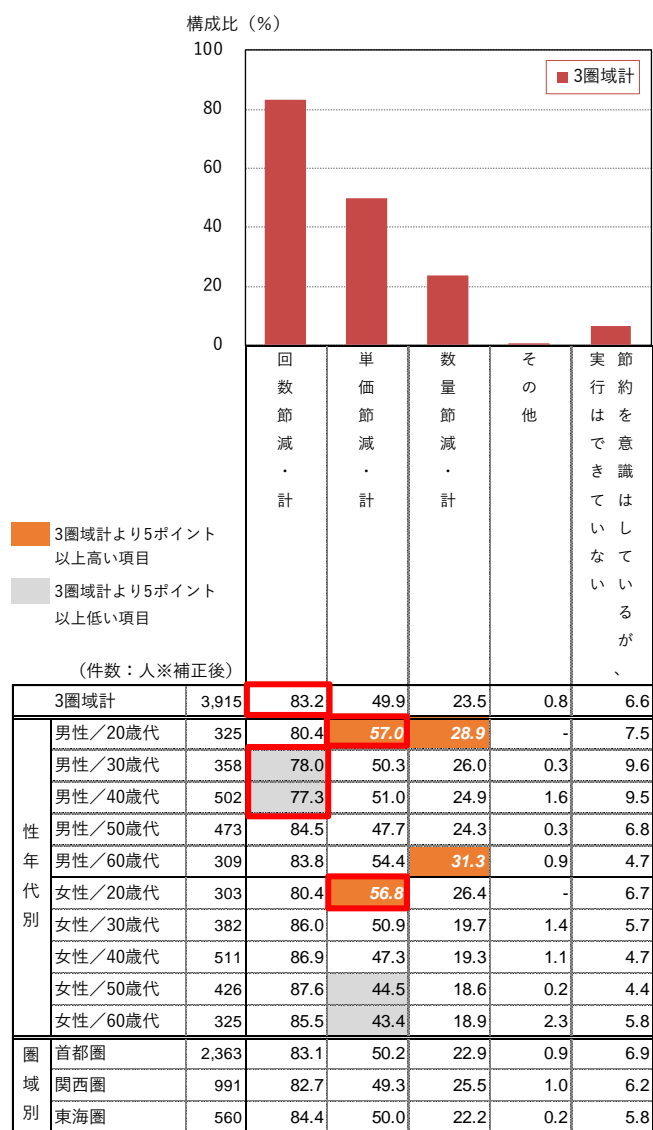
※「飲酒節約・計」：「現在、外食時に実行している節約方法」で「外食の回数を減らす（飲酒）」「外食で飲食する量を減らす（飲酒）」「外食で注文するものの単価を抑える（飲酒）」のいずれかを回答した人を集計

※「朝食節約・計」：「現在、外食時に実行している節約方法」で「外食の回数を減らす（朝食）」「外食で飲食する量を減らす（朝食）」「外食で注文するものの単価を抑える（朝食）」のいずれかを回答した人を集計

4. 外食での節約方法は、「回数」を減らす 83.2%。20代男女は「単価」で節約の傾向も

現在特に節約を意識している出費で「外食」と回答した人に、具体的な節約方法を尋ねた。外食の「回数」を減らす人が 83.2%と、「単価」や「(注文の)数量」を減らす人よりも割合が高かった。性年代別では、30・40代男性は、「回数」で節約する人の割合が低く、20代男女は「単価」で節約する人の割合が他の性年代よりも高かった。

【節約種別】現在、外食時に実行している節約方法（「特に節約を意識している出費」で「外食の費用」と回答した方／複数回答）



※「回数節約・計」：「現在、外食時に実行している節約方法」で「外食の回数を減らす（朝食）」「同（昼食）」「同（夕食）」「同（喫茶）」「同（飲酒）」のいずれかを回答した人を集計

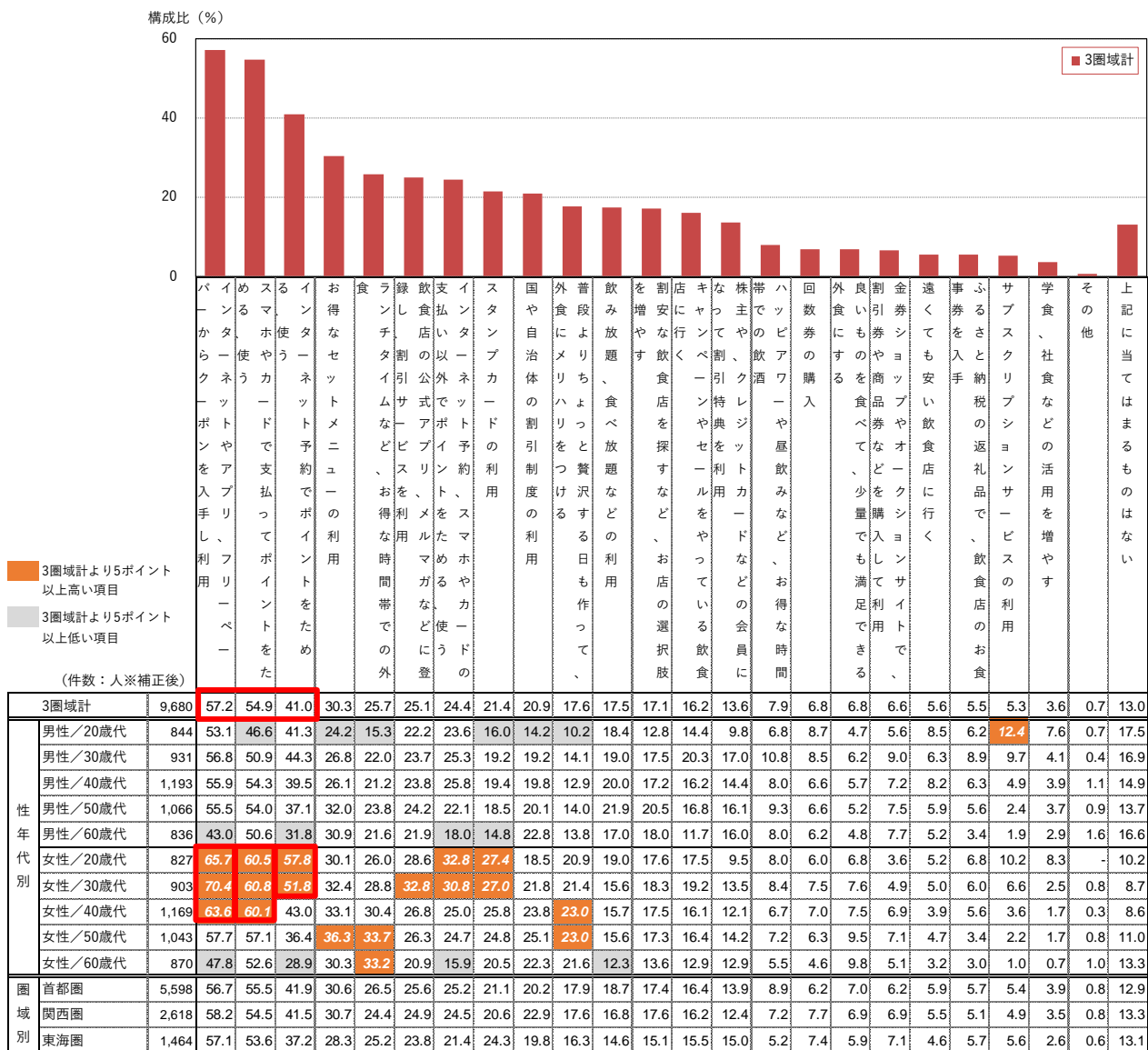
※「単価節約・計」：「現在、外食時に実行している節約方法」で「外食で注文するものの単価を抑える（朝食）」「同（昼食）」「同（夕食）」「同（喫茶）」「同（飲酒）」のいずれかを回答した人を集計

※「数量節減・計」：「現在、外食時に実行している節約方法」で「外食で飲食する量を減らす（朝食）」「同（昼食）」「同（夕食）」「同（喫茶）」「同（飲酒）」のいずれかを回答した人を集計

5. 外食で実施したことがある節約方法 TOP3 は、「クーポン」「スマホやカード支払いでポイント取得」「インターネット予約でポイント取得」

実施したことがある外食時の節約方法について尋ねた。1位は「インターネットやアプリ、フリーペーパーからクーポンを入手し利用」で57.2%、2位は「スマホやカードで支払ってポイントをためる、使う」で54.9%、3位は「インターネット予約でポイントをためる、使う」で41.0%。性年代別では、20～40代女性で「インターネットやアプリ、フリーペーパーからクーポンを入手し利用」「スマホやカードで支払ってポイントをためる、使う」の割合が高く、さらに20・30代女性で「インターネット予約でポイントをためる、使う」も割合が高く、女性の若年層で多様な節約方法が積極的に活用されていることがわかった。

実施したことがある外食時の節約方法（全体／複数回答）

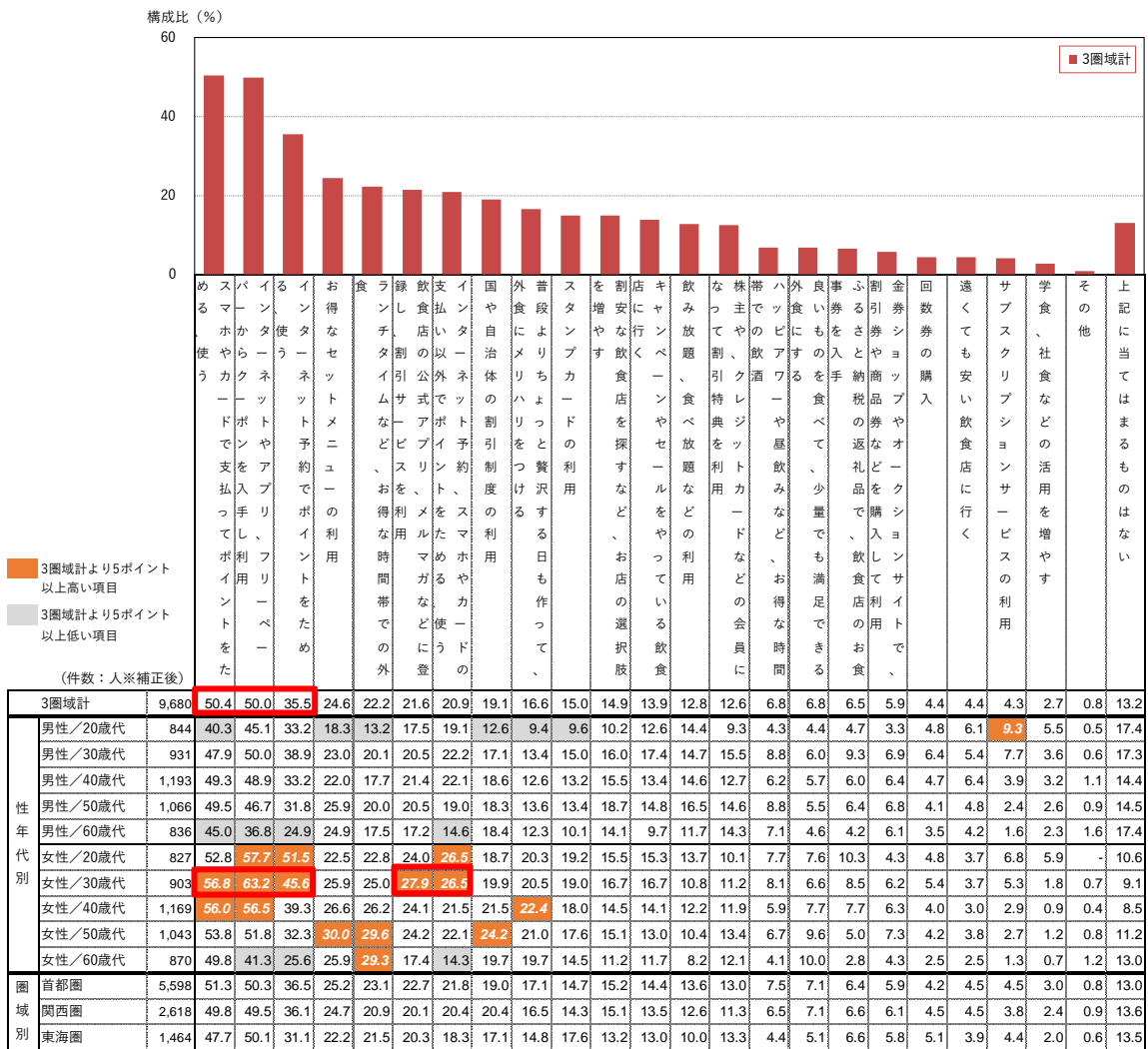


※「3圏域計」の多い順にソート

6. 今後も実施したい節約方法のトップは「スマホやカードで支払ってポイントをためる、使う」

今後も実施したい外出時の節約方法について尋ねた。1位は「スマホやカードで支払ってポイントをためる、使う」で50.4%、2位は「インターネットやアプリ、フリーペーパーからクーポンを入手し利用」で50.0%、3位は「インターネット予約でポイントをためる、使う」で35.5%と、TOP3は1位と2位が入れ替わっているが、実施したことのある節約方法と同じ項目が並んだ。性年代別では、30代女性でTOP3の項目すべてにおいて今後の実施意向が高いうえに、「飲食店の公式アプリ、メルマガなどに登録し、割引サービスを利用」「インターネット予約、スマホやカードの支払い以外でポイントをためる、使う」の回答割合も高い。30代を中心に女性は男性に比べ、より積極的に節約術を活用する意向が高いことがわかる。

今後も実施したい外出時の節約方法（全体／複数回答）



リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>